

	社会動向・背景	上位・関連計画	現状分析
土地利用・産業	<ul style="list-style-type: none"> ○コンパクト・プラス・ネットワークの推進 ○まちのまとまりの推進 ○官民連携手法の導入 ○市街地整備 2.0 への転換 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県央広域都市圏 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針【R2.11】 ○安中市役所及び安中駅周辺を地域拠点として商業や居住を配置し、群馬県内の他地域の商業・居住機能を補完する ■ 西毛広域幹線道路を活かした活力ある魅力的な沿道のまちづくり ○空家の活用等、活力ある地域づくりのための土地活用を図る ■ 第3次安中市総合計画(案)【R6.3(策定予定)】 ○市役所等を都市機能や都市交通が集積する都市拠点に指定 	<ul style="list-style-type: none"> ○市の東部に都市機能の集積・西部は山林地帯 ○市域の約80%が自然的土地利用 ○JR線及び国道18号中心に住居系地域の分布 ○小売業の従業者数は減少傾向 ○経営耕地面積の減少 ○市内各地で農地転用 ○宅地開発の約半数が太陽光発電に関連する開発
交通	<ul style="list-style-type: none"> ○デマンド交通の運用 ○地域交通の「リ・デザイン」の推進 ○交通DX(デジタルトランスフォーメーション)の活用 ○交通GX(グリーントランスフォーメーション)の活用 ○新たなモビリティ(自動運転、電動キックボード、電動車いす)の活用 ○貨客混載制度の実施区域の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 西毛広域幹線道路を活かした活力ある魅力的な沿道のまちづくり ○広域幹線道路の走行の快適性と安全確保 ■ 第3次安中市総合計画(案)【R6.3(策定予定)】 ○国道18号や西毛広域幹線道路を都市及び市街地を支える広域交通軸に指定 ※地域公共交通計画 ※安中市バリアフリーマスタープラン ※安中市バリアフリー基本構想 ※は策定中 	<ul style="list-style-type: none"> ○代表交通手段は自動車、オートバイに依存 ○デマンドタクシーの利用者はR2以降増加傾向 ○都市計画道路の10路線が一部未整備、4路線が全線未整備 ○西毛広域幹線道路の全線事業化 ○安中-磯部駅間で新駅設置の構想
水・みどり・環境	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な開発目標(SDGs)の推進 ○地球温暖化の進行 ○持続可能な社会の創出 ○ゼロカーボンシティ・カーボンニュートラルの推進 ○グリーンインフラの取組の推進 ○エコロジカルネットワークの創出 ○30by30(サティ・バイ・サティ)の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第3次安中市総合計画(案)【R6.3(策定予定)】 ○市域西部の自然環境の保全と広域観光交流や環境学習の場の創出 ■ 安中市公共施設等総合管理計画【H29.2(R4.3改定、R5.12一部変更)】 ○公園の長寿命化、トイレの必要性の検討 ■ 安中市環境基本計画2016【H28.3】 ○自然共生社会、循環型社会、低炭素社会、協働社会の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○市全域に緑が分布 ○市内に、し尿処理施設が1施設、廃棄物処理施設が2施設と処理施設は3施設配置 その他、一般廃棄物処理業が7社、産業廃棄物処理業が12社稼働している ○R4年では下水道整備面積のうち約99.2%が供用を開始
防災	<ul style="list-style-type: none"> ○激甚化・頻発化する自然災害の増加 ○復興事前準備の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 安中市地域防災計画【H18年度(R5.9改定)】 ○災害予防、応急対策、復旧・復興体制の推進 ■ 安中市公共施設等総合管理計画【H29.2(R4.3改定、R5.12一部変更)】 ○耐震化など公共施設の適切な維持管理の推進 ■ 安中市国土強靱化計画【R4.3】 ○災害時の通信手段の確保 ○避難所、緊急輸送道路の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○安中駅周辺や磯部駅周辺、谷地は洪水の影響を受けやすい ○山間部で土砂災害の影響を受けやすい地域が広く分布 ○磯部-松井田間には地震の影響を受けやすい地域がある ○浅間山の大規模噴火が発生した場合、20~50cmほどの降灰の影響
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォークアブルなまちづくりの推進 ○バリアフリーの推進 ○デジタル庁発足、デジタル化の推進 ○生活様式の多様化 ○都市アセットマネジメントの活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第3次安中市総合計画(案)【R6.3(策定予定)】 ○デジタル技術の活用 ■ ぐんま“まちづくり”ビジョン安中市アクションプログラム【R3.6】 ○空家の利活用による転居の促進 ■ 安中市公共施設等総合管理計画【H29.2(R4.3改定、R5.12一部変更)】 ○行政サービスの維持向上、財政負担の軽減・平準化、計画的な施設更新の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化の進行 ○人口動態は減少傾向 ○R4年で約10年ぶりに社会動態が転入超過 ○空き家率が増加 ○全用途で地価が減少傾向
景観	<ul style="list-style-type: none"> ○太陽光パネルによる景観阻害 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 西毛広域幹線道路を活かした活力ある魅力的な沿道のまちづくり ○景観誘導地域指定等により西毛広域幹線道路沿道の景観保全 ■ 安中市景観計画【R4.2】 ○景観重点地区(旧中山道など)の指定の検討 ○市民総働の景観まちづくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内には108件の文化財、史跡が分布 ○景観重要樹木を指定

現行計画の
評価・検証

参考資料 4

市民・事業者
アンケート

参考資料 5

ワークショップ結果

参考資料 6

土地利用・産業

- 国道 18 号と西毛広域幹線道路が交差する市役所周辺で、商業機能の集積を進める
- 市街地縁辺部の既存大規模工場用地等と関連して、隣接部に開発される産業用地は、既存工業機能の増進と活力ある産業機能の誘導を図る

- 市民意向調査
 - 幹線道路沿いに商業機能の誘導や住環境の形成を図ることが重要
 - 都市機能がまとまった利便性の高いまちづくりが重要
- 事業者意向調査
 - 事業所の土地が狭い
 - 大・中規模の工場の移転・集約が必要
 - 幹線道路沿いの商業施設の充実が重要

- まとまりのあるまちづくりを目指す
- 施設誘致が必要
- 宅地開発が必要
- 農振法による開発の制限が厳しい
- 起伏のある地形のため開発しにくい
- 農産物等の発信が重要
- 地域資源(碓氷峠、磯部温泉等)の活用が重要

交通

- 西毛広域幹線道路の整備を促進し、富岡市や高崎市、前橋市などの広域連携強化を図る
- 乗合バスや乗合タクシーのデマンド対応型交通の需要把握により、運行形態を検討する
- 定時定路線の公共交通の運行が困難な地域では、タクシーの利用や公共公益施設の送迎バスの活用など、他の交通手段の確保と利用システムの確立を図る

- 市民意向調査
 - 交通の利便性が悪い
- 事業者意向調査
 - 鉄道本数の増加が重要
 - コミュニティバス等、機動性が高く使いやすいバスの運行が重要

- 車社会であるため、免許の返上ができない
- デマンド交通の充実が重要
- 公共交通の運行体系の再編が必要
- 西毛広域幹線道路の有効活用が大切
- 新駅周辺の環境整備が大切

水・みどり・環境

- 碓氷川、九十九川の河川敷や堤防、管理用道路に広場や歩行空間等を整備し、身近な親水空間として活用する
- 地域の山林自然環境、農業生産環境と一体となった公園緑地施設への道路整備により、体験学習の場としての機能を拡充する
- 施設機能更新や維持管理活動への市民参加を促進
- 宅地開発整備は、「地域開発事業指導要綱」の運用などにより、宅地内の緑化の誘導やゴミステーションの適正な配置を推進する

- 市民意向調査
 - 水源地や山林・農地など自然環境の保全が重要
 - 身近に水・みどりに触れられる環境の整備が重要
 - 再生可能エネルギーの活用などの取組による低炭素社会の実現が重要

- 鳥獣被害が多い
- 雑草や支障木の整備が必要
- 耕作放棄地が増加
- ごみの不法投棄が多い

防災

- 大量降雨時に異常出水する恐れのある市街地内の小河川・排水路の狭あい部の改修整備を推進し、市街地の浸水災害の防止を図る
- 市街地の建築物の耐震化、不燃化を促進し、震災時の倒壊・延焼の防止を図る
- 道路・橋梁の耐震化、長寿命化と適正維持管理の推進、ブロック塀の生け垣化など、沿道の敷地・建築物の構造や形態の誘導により、災害時の経路を確保する

- 市民意向調査
 - 誰もが安心して暮らせる都市を望む
 - 自然災害に対し十分な備えがとられた都市を望む
 - 避難所や備蓄倉庫の整備が重要
 - 事前対策や復旧体制の構築が重要

- 災害時における緊急輸送道路の確保
- 避難所や避難ルートの確保が必要
- 防災情報を発信していくことが必要

生活環境

- 道路や歩道の拡充、ユニバーサルデザインによる歩行空間整備を促進し、誰もが使いやすい市街地環境や都市機能を形成する
- 「安中市狭あい道路の整備に関する要綱」を運用し、建築時の壁面後退の誘導など、住宅地の居住環境、防災性の改善・向上を図る
- 用途廃止された団地や移転・建替えされた住棟・住戸の敷地は、各地域の市街地整備に資する用地として活用する

- 市民意向調査
 - 買い物など日常の利便性が悪い
 - 通勤、通学が不便
 - 身近な生活道路の整備が重要
 - 空地・空家など利活用が重要
 - 医療・福祉施設の利便性が悪い
- 事業者意向調査
 - 娯楽施設や商業施設が不足

- 空家や小学校跡地の利活用が重要
- 救急車が通れない狭あい道路の整備が必要
- 雇用の場が不足している
- 小学校整備等の子どもに優しいまちづくりの促進
- 子育て支援を充実が重要
- 文化教育都市を目指す

景観

- 河岸段丘の緑地、田園集落地の里山緑地の緑地保全地区など、地域制緑地の指定を検討する

- 市民意向調査
 - 妙義山などの自然景観を現在のままで保全が重要
 - 観光拠点を中心とした景観整備の促進が重要
 - 敷地内緑化など、まちなかに緑豊かなゆとりある景観の形成が重要

- 太陽光パネルによる景観の阻害が問題
- 自然景観の保全が重要
- 歴史的なまちなみ保全が重要

安中市の課題

黒：継続
 緑：削除 or 分野の変更
 青：分野内で一部変更
 赤：新規

現行計画 (P48,49)

改定計画

土地利用・産業

都市拠点の配置と土地利用誘導の課題
 ◆市街地整備の課題
 ・周辺農業農村環境と調和した計画的市街地整備推進、宅地化の誘導
 ・低未利用地、施設跡地の有効利用と適正維持管理の促進
 ◆都市総合拠点・生活拠点の配置、再編更新整備の課題
 ・**中心市街地の公共公益施設の機能再編再配置、更新整備**
 ・地区レベルの拠点施設の機能複合、統合化、管理への市民参加促進
 ◆商業・業務系土地利用の誘導の課題
 ・**まちなか居住、観光交流と連動する既存商店街の特色ある商業機能再生**
 ◆工業・物流等産業用地の整備供給の課題
 ・既存工業機能と関連する用地需要に応える産業用地の整備供給
 ◆居住環境の整備、保全の課題
 ・緑辺部住宅市街地の系統的基盤整備、良好居住環境形成・保全
 ・中心市街地での建築物更新にともなう都心型住宅の建築誘導
 ・市内住替えに資する適地への市営住宅の集約更新整備、長寿命化
 ◆観光・交流拠点の機能拡充、環境保全の課題
 ・**拠点アクセス道路の整備拡充、駐車場整備**
 ・**観光交流資源を美しく整えて活かす環境保全、景観形成整備**
 ◆自然的土地利用の保全、活用の課題
 ・農村集落地における開発・建築の規制誘導による集落環境保全
 ・耕作放棄地や非可住宅地、家屋による周辺環境・景観の阻害の防止

・コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりの実現
 ・持続可能なまちづくり
 ・**特定用途制限地域導入に向けた取組の推進**
 ・周辺農業農村環境と調和した計画的市街地整備推進、宅地化の誘導
 ・**西毛広域幹線道路と国道18号及びJR信越本線が交差する市役所周辺に都市機能や生活機能を誘導**
 ・**新駅設置に伴う周辺の道路整備や土地利用の再編**
 ・低未利用地、施設跡地の有効利用と適正維持管理の促進
 ・地区レベルの拠点施設の機能複合、統合化、管理への市民参加促進
 ・既存工業機能と関連する用地需要に応える産業用地の整備供給
 ・緑辺部住宅市街地の系統的基盤整備、良好居住環境形成・保全
 ・中心市街地での建築物更新にともなう都心型住宅の建築誘導
 ・市内住替えに資する適地への市営住宅の集約更新整備、長寿命化
 ・農村集落地における開発・建築の規制誘導による集落環境保全
 ・**横川駅に新たに整備する道の駅を最大限に活用した、地域の魅力や観光情報、特産品等の情報発信**
 ・**既存観光地の連携強化**
 ・**磯部温泉周辺の活性化**

交通

交通体系の形成・整備の課題
 ・南北方向の幹線道路整備と国道等東西方向幹線道路の交差点改良促進
 ・JR信越本線利用促進、機能維持の資する駅周辺駐車場等交通結節機能強化
 ・交通弱者の利用需要に即した乗合バス・乗合タクシーの路線の適正化、拡充機能再生

・**国道18号や西毛広域幹線道路を中心とした道路ネットワークの構築**
 ・**新駅設置による新たな公共交通のネットワークの構築**
 ・交通弱者の利用需要に即した乗合バス・乗合タクシーの路線の適正化、拡充・機能再生
 ・**MaaS等の新技術を利用した交通の利便性の向上**
 ・**新駅設置、磯部温泉周辺活性化、横川駅に隣接して整備する道の駅などによる鉄道沿線の活性化など**
 ・**バリアフリー計画を活かしたまちづくり**

防災

公園・緑地の配置・整備の課題
 ・**既存公園施設の改修整備の促進、維持管理への地域住民参加の促進**
 ・市街地における防災機能を有する公園・広場の整備
 ・周辺環境と調和する墓苑の適地への配置整備

・**自然環境の保全や公園施設等の維持管理への地域住民参加の促進**
 ・**再生可能エネルギーの活用等、ゼロカーボンシティ実現に向けた施策の推進**
 ・**親水空間等、自然を活用した交流空間の創出**

生活環境

都市の防災性能の向上の課題
 ・防災拠点、避難・救援・備蓄機能の分散配置とネットワーク確立

・防災拠点、避難・救援・備蓄機能の分散配置とネットワーク確立
 ・**自然災害に対する防災・減災や復興まちづくりの事前準備の検討**

供給処理施設の整備の課題
 ・当面の合併処理浄化槽設置と調整のとれた市街地（用途地域指定区域）における公共下水道事業の推進
 ・産業用地の開発整備に対応する水道水源の確保と排水施設の整備
 ・一般廃棄物焼却灰の最終処分場の確保、リサイクルセンター等の整備検討

・生活道路の整備や上下水道の長寿命化
 ・デジタル技術等の活用による日常生活の利便性の向上
 ・地域特性を活かした地域の活性化
 ・空家などの未然防止
 ・耕作放棄地や空地・空家などの利活用

景観

都市環境・景観の課題
 ・重層する交通史跡と美しい自然を都市づくりに活かす景観形成

・重層する交通史跡と美しい自然を都市づくりに活かす景観形成
 ・**新駅や西毛広域幹線道路整備にともなう周辺や沿道の良好な景観形成**

見直しの方向性

安中市では、少子高齢化が進行しており、計画の目標年度である20年後には高齢化率が約50%と予測され、超高齢社会を迎えようとしています。これに伴い、社会保障費の増加や、公共交通や生活サービス施設等の日常生活を支える都市機能の不足など、都市の経営や持続可能性に対する懸念が生じています。

また、地球温暖化をはじめとする気候変動により、自然災害が激甚化・頻発化しており、まちの安全性に対する要望が高くなっている他、新型コロナウイルス感染症の流行を契機とした、人々の暮らし方や働き方の多様化、AIやIoT等の先端技術を活用した自動運転技術やスマートシティへの取組の強化など、まちに求められる機能にも変化が生じています。

これらをはじめ、まちに求められる機能に対応するためには、持続可能なまちづくりの推進が必要です。

そのため、都市の構造では、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを推進し、都市機能や生活機能が集積した拠点を形成するとともに、各拠点を公共交通で有機的に結ぶことで、日常生活の利便性が向上し、効率的な都市経営を営むことができるまちの形成を図ります。

また、ゼロカーボンシティ実現への取組や水・みどりの利活用を推進することで、安中市が有する豊かな自然環境を後世に引き継ぎつつ、自然災害に対しては、災害リスクの高い地区以外への住居の誘導や都市基盤の強靱化、復興まちづくりの事前準備などにより安全な市民生活を確保し、自然環境と共生したまちの形成を図ります。

社会情勢や地域特性、まちに求められる機能など、幅広い視点で考慮し、20年後の安中市が豊かで持続可能な都市を形成するために、都市

将来像・都市づくりの基本理念

【第3次安中市総合計画 まちの将来像(令和6年策定予定)】

○まちの将来像

これまで本市が進めてきたまちづくりの経験・実績を踏まえるとともに、まちの「魅力」や市民の「生活力」と「幸福度」を向上し、少子化対策、人口の減少抑制策につなげるため、まちの将来像を次のように掲げます。

住んで良かった 豊かで魅力ある元気な 新しいあんなか
～さらに、光り輝くまちへ～

○まちづくりの基本目標

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 未来を担う 子どもたちが健やかに育つまち | 【少子化対策、子育て支援など】 |
| 2 支え合い 誰もが健康長寿で暮らしやすいまち | 【健康、福祉、医療など】 |
| 3 安全・安心で心地よく 住み続けられるまち | 【都市基盤、安全・安心など】 |
| 4 自分らしく 心豊かに暮らせるまち | 【教育、文化、都市間・国際交流、市民参加など】 |
| 5 豊かな自然を活かし 快適で住みやすいまち | 【環境保全、住環境など】 |
| 6 経済が活性化し 元気で 魅力にあふれるまち | 【産業、雇用、観光など】 |
| 7 市民のための健全な行財政運営と 市の魅力向上 | 【行財政、自治体 DX など】 |

<現行計画 (P53)>

【第1次安中市総合計画(H20～H29)】

- | | | |
|------|----------|-------------------------------|
| 基本理念 | “暮らしの安心” | ○ 健康で、安全、安心に暮らせるまちをつくる |
| | “地域力の発揮” | ○ 歴史・文化を継承し、自然と共生する活力あるまちをつくる |
| | “交流と協働” | ○ 交流と協働によるやすらぎのあるまちをつくる |

将来像
豊かな自然と歴史に包まれて
ひとが輝くやすらぎのまち

【現行都市計画マスタープラン(H27.3)】

○将来都市像

総合計画で掲げる将来像に向けて、高齢化が進む地域社会にあっても、人が輝き、やすらぐことのできる都市基盤・都市環境の形成を目指し、都市整備分野の共通目標を次のように定めます。

豊かな自然と歴史に包まれて
穏やかな暮らしが営まれ、いきいきした交流が育まれるまち
あんなか

○都市づくりの基本理念

将来像都市像の実現に向けて次のような基本理念に基づいて都市づくりの行政施策・市民活動を展開します。

- (1)誰もが安心して住み続けられるまち
- (2)多くの人が訪れいきいきと交流するまち
- (3)働きやすく社会参加しやすいまち
- (4)穏やかで美しくやすらぎの感じられるまち
- (5)あるものを結び付け、活かし、使いこなすまちづくり

<改定計画>

【将来都市像(案)】

つなぎ 紡ぐ 人とまち

魅力あふれる自然と 歴史重ねるまち あんなか

つなぎ 紡ぐ 人とまち

- ・人と地域がつながり、連携していく ・コンパクト・プラス・ネットワークや持続可能なまちづくり
- ・「紡ぐ」には古くから養蚕で栄えた文化を表し、養蚕・製糸の歴史が詰まっている
- ・西毛広域幹線道路の開通や新駅構想など、近隣自治体とのつながりも重視

魅力あふれる自然

- ・妙義山や崇台山などの山 ・碓氷湖や妙義湖などの湖 ・碓氷峠
- ・碓氷川や九十九川などの河川 ・麻苧の滝、仙ヶ滝 ・秋間海林

歴史を重ねるまち

- ・様々な歴史を後世に残し、未来へつなぐようなイメージ ・板倉勝明、湯浅治郎、新島襄、柏木義円
- ・世界文化遺産登録を目指す、碓氷峠の鉄道遺産群
- ・4つの宿場町が設けられているなど、街道のまちとして栄えてきた
- ・碓氷関所が設置されて400年を迎える ・安政遠足は令和6年で50回目を迎える
- ・安中藩の城下町としても知られ、松井田城址も国史跡指定を目指し地域の盛り上がりを見せている

人と人がつながる。人とまちがつながる。そして地域と地域がつながり、10年、20年先も住み続けたいと思えるまちづくりを行います。そしてコンパクト・プラス・ネットワークや持続可能なまちづくりの実現を目指し、新たなまちの拠点整備やそれらを繋ぐ西毛広域幹線道路等のネットワークの整備を進めます。また、今ある魅力的な自然・歴史景観、文化財などを後世に継承するとともに、新たな歴史を重ねて新しいあんなかをつくるために、この将来都市像を掲げます。

地区別意見交換会での意見の一部(将来像に取り入れたいキーワード)

自然(妙義山)/歴史(碓氷峠・磯部温泉・中山道)/SDGs/魅力/活かす/豊かな/文教都市/子どもに優しい/あたたかく/安心・安全/交通の拠点/人が集まる/まとまり/つながる/働きやすい/子育て/偉人/住み続けたい

【まちづくりの基本目標(案)】

将来都市像を実現するための具体的な目標を設定

○ 魅力を高め 多様な人が活動し、いきいきと交流するまち

西毛広域幹線道路の整備や、JR信越本線への新駅設置、安中市役所庁舎の建替え、工業団地の創設や増設、公有地の利活用など都市基盤の整備にあわせて、商業・業務機能の拡充を図り新しい魅力を創出するとともに、道の駅の新設や磯部駅周辺の活性化など、市が有する観光資源を活用し、魅力を磨くことで、市民や従業者、観光客など多様な人でにぎわうまちを目指します。

○ 多様な移動手段が確保され 誰もが心地よく生活できるまち

電車、バス、タクシー等の公共交通が有機的に結ばれ、学生や子育て世代、高齢者など、様々な境遇にある人が自分にあった交通手段を選択することができ、誰もが日常生活を便利で心地よく生活できるまちを目指します。

○ 未来を拓く より暮らしやすい新しいまち

AIやIoT、自動運転技術やスマート農業をはじめとする先端技術を積極的に活用することで、交通問題や人手不足などの社会的課題に取り組むとともに、市役所のDX推進など生活面でも新しい技術を活用することで、より暮らしやすく新しいまちを目指します。

○ 誰もが安全で安心し、心豊かに暮らし続けられるまち

新庁舎の建替による防災拠点機能の強化をはじめとしたまちの強靱化を図ることで、激甚化・頻発化する自然災害から市民を守り、安全な生活を保障するとともに、温室効果ガス排出量実質ゼロへの取組やSDGsの取組などにより、将来にわたり暮らし続けることができるまちを目指します。

○ 歴史・文化を継承し 自然とともに生きるまち

先人たちが築いてきた歴史・文化と、広大で豊かな自然環境や生態系を守るだけでなく、活用することで市の魅力を磨き、後世に継承することを目指します。

1. 土地利用構成の大枠(土地利用エリア)

<現行計画 P56>

■市街地エリア

- 碓氷川沿岸の国道18号など東西方向広域幹線道路の沿道の既存市街地と、その縁辺部において系統的な基盤整備を進める地区を「市街地エリア」とします。
- 安中・板鼻地域、原市・磯部地域、松井田地域にまたがり、連担する3つの“まちのまとまり”ごとに、コンパクトな市街地の形成を図ります。

■山林環境エリア

- 市域西部の自然公園地域、森林地域を「山林自然環境エリア」とします。
- 自然公園法、森林法に基づく自然環境の保全と、広域観光交流や環境学習の場としての活用を図ります。

■田園・集落エリア

- 市街地エリアと山林自然環境エリアの間に広がる河川沿いの農地、里山とそれに介在する集落地の区域を「田園集落エリア」とします。
- 自然環境・農業生産環境との調和を図りつつ、集落地の生活環境の改善整備を進め、地域コミュニティの活力の維持増進を図ります。

★主な変更点

○市街地エリア

- 西毛広域幹線道路の沿道の一部（沿道まちづくり方針で住宅・店舗を誘導する区域に定められている場所）を市街地エリアとして新たに設定。
- 安中榛名駅周辺、横川駅周辺を新規に追加。
⇒主に用途地域に指定されている区域、または今後用途地域にしている可能性がある区域を市街地エリアに指定。

○田園・集落エリア、山林環境エリア

- 記載順を変更。
- 山林環境エリアの名称を「山林自然環境エリア」に変更。
- 増田川沿川の地域は、都市計画区域外であるため、山林自然環境エリアに変更。

2. 都市の拠点地区の配置

<現行計画 P57>

高次の都市機能が集積する「都市の拠点」は、上位計画に示された広域拠点の配置構成を都市レベルで再構成し、次のように配置構成します。

加えて、地域固有の資源を活かし、相互に連携して広域観光交流を促進するための環境・機能を計画的に整える拠点地区として、「広域観光交流ゾーン」を都市構造に位置づけます。

都市拠点

- 必要な公共施設、高次の都市機能が集積し、都市の交通が集中する「市役所・安中駅周辺地区」

地域生活拠点

- 都市拠点の機能を補完し、それぞれの地域の最寄りの生活拠点機能が集積する「原市交差点・磯部駅周辺地区」、「松井田・西松井田駅周辺地区」
- 田園集落エリアにおいて、交通結節機能を主とする特色ある拠点「横川駅周辺地区」「安中榛名駅周辺地区」

産業拠点

- 地域の身近な職場として通勤や広域的な物流のための交通の強化を図るべき一団の大規模産業用地、工業団地

広域観光交流ゾーン

- 「安中宿・安中城址周辺ゾーン」「磯部温泉ゾーン」「松井田宿ゾーン」「横川駅周辺・坂本宿・碓氷峠ゾーン」「秋間梅林ゾーン」「妙義山麓ゾーン」

★主な変更点

○タイトル

- 基本的な考え方の変更に伴いタイトルを変更

○都市拠点

- 拠点の示す内容を一部変更

○地域生活拠点

- 地域生活拠点内の区別を1つに統合
⇒「1. 土地利用の構成」で安中榛名駅周辺及び横川駅周辺の市街地エリアへの指定に伴い変更。

○産業拠点

- 産業拠点の名称を「産業振興ゾーン」に変更。
⇒拠点とゾーンの基本的な考え方の変更に伴い名称を変更。
- 開発の機運が高い場所を新規に産業振興ゾーン指定。

○広域観光交流ゾーン

- 松井田城址、板鼻宿を新規に広域観光交流ゾーンに追加。

1. 土地利用構成の大枠(土地利用エリア)

基本的な考え方

- 「エリア」は、土地利用の特性に応じた構成の大枠を示します。
- 用途地域に指定もしくは今後指定される可能性がある地域を市街地エリア、都市計画区域を田園・集落エリア、都市計画区域外を山林環境エリアに指定。

■市街地エリア

- 国道18号、JR信越本線などの東西方向広域交通路に沿った既存市街地と、その縁辺部、整備が進められている西毛広域幹線道路の沿道一部を、系統的な基盤整備を進める「市街地エリア」とします。
- 「市街地エリア」では、安中・板鼻地域、原市・磯部地域、松井田地域にまたがり、連担する3つの“まちのまとまり”ごとに、コンパクトな市街地の形成を図ります。

■田園・集落エリア

- 市街地エリアと山林自然環境エリアの間に広がる河川沿いの農地、里山とそれに介在する集落地の区域を「田園・集落エリア」とします。
- 自然環境・農業生産環境との調和を図りつつ、集落地の生活環境の改善整備を進め、地域コミュニティの活力の維持増進を図ります。

■山林自然環境エリア

- 市域西部の自然公園地域、森林地域を「山林自然環境エリア」とします。
- 自然公園法、森林法に基づく自然環境の保全と、広域観光交流や環境学習の場としての活用を図ります。
- 農地・山林とそれに介在する集落地については、周辺の山林自然環境との調和を図りつつ、生活道路の整備などによる集落地の生活環境の改善と、山林・農地の管理・活用による荒廃の防止を進め、コミュニティの活力の維持増進を図ります。

2. 都市の拠点とゾーンの配置

基本的な考え方

- 「拠点」は、都市機能や生活サービス機能が集積する市民生活の中心となる地点を示し、「ゾーン」は、地域の資源を活かす範囲の広がりを示します。
- 駅を中心とした都市機能や生活サービス機能、交通結節点が集積する地点を拠点、工業団地や観光資源等が集約する場所をゾーンに指定。

都市拠点

- 生活サービス機能や公共施設などの都市機能が集積するとともに、都市の交通が集中する市の中心的な拠点
⇒「安中市役所・安中駅周辺」

地域生活拠点

- 都市拠点の機能を補完するとともに、交通結節機能を有し、生活サービス機能が集積する、地域生活を支える拠点。
⇒「原市交差点・磯部駅周辺地区」、「松井田・西松井田駅周辺地区」、「横川駅周辺地区」、「安中榛名駅周辺地区」

産業振興ゾーン

- 市の産業を支え、地域の身近な職場としての通勤や広域的な物流のための交通の強化を図るゾーン。
⇒「一団の大規模産業用地」、「工業団地」など

広域観光交流ゾーン

- 地域の資源や歴史・文化など適切に保全しつつ、広域観光を促進するための環境や機能を計画的に整えるゾーン。
⇒「板鼻宿」、「安中宿・安中城址周辺」、「磯部温泉」、「秋間梅林」、「松井田宿・松井田城址」、「妙義山麓」、「横川・坂本宿・碓氷峠周辺」

3. 都市の都市軸・拠点軸の構成

<現行計画 P56>

■都市軸

- 歴史的にも都市の背骨である、国道18号の東西方向広域交通軸と歴史的な市街地の連なる旧中山道沿道及びJR信越本線沿線を、都市機能の連担集積を図る「都市軸」とします。
- 重要な都市機能が連担する国道18号沿道、旧中山道沿道、JR信越本線沿線

■交通軸

- 都市及び市街地を支え、広域圏と連絡する主要交通路であり沿道の都市機能の連担集積、連携の方向性を示す「交通軸」を、次のように配置構成します。

広域交通軸

- 東西方向に都市を貫き、首都圏と信越地方を連絡する国道18号
- 前橋・高崎の広域都市圏の外郭環状線であり、前橋方面、富岡方面と本市都市拠点を南北に連絡する西毛広域幹線道路（都市計画道路3・6・10南北中央幹線）

地域連絡交通軸

- 鉄道駅周辺拠点地区と周辺地域を河川や鉄道を越えて南北に連絡する地域生活交通の軸であり、災害時の避難・救援の主要経路となる幹線道路
- 碓氷川右岸の市街地と産業機能を東西に連絡し、国道18号のバイパス機能を果たす幹線道路

★主な変更点・確認事項

○タイトル

- 基本的な考え方の変更に伴いタイトルを変更。

○都市軸

- 現行計画の交通軸「広域交通軸」の位置づけを含有して整理。
- 都市軸に西毛広域軸（西毛広域幹線道路沿道）を追加。

○交通軸

- 広域交通軸と都市軸の統合に伴い、地域連携交通軸の名称を「地域軸」に変更して整理。

3. 都市軸・地域軸の構成

基本的な考え方

- 「軸」は、市内の各拠点や都市機能などの結びつきを強化する道路や鉄軌道を示します。
- 都市軸は、市内の主要な交通を支えるとともに、沿道の利活用を進め、にぎわいや生活サービス機能を創出する軸を示し、地域軸は、都市軸の補完として、市内の交通を支える軸として示します。

■都市軸：

○東西幹線軸(国道18号・旧中山道沿道・JR信越本線沿線)

- 歴史的にも都市の背骨であり、周辺市と市内の4拠点を繋ぐだけでなく、都市機能の連担集積も図る骨格的な軸

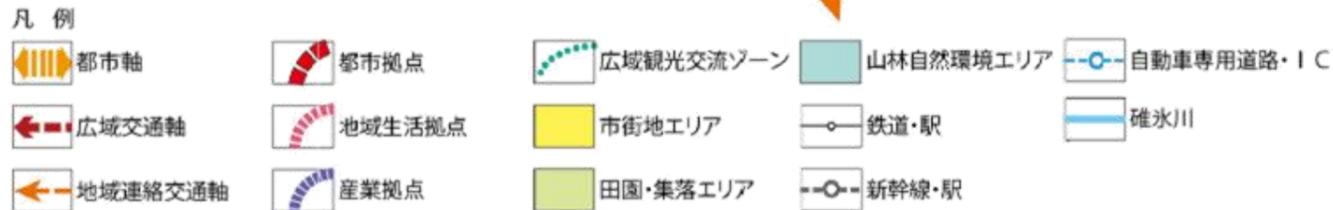
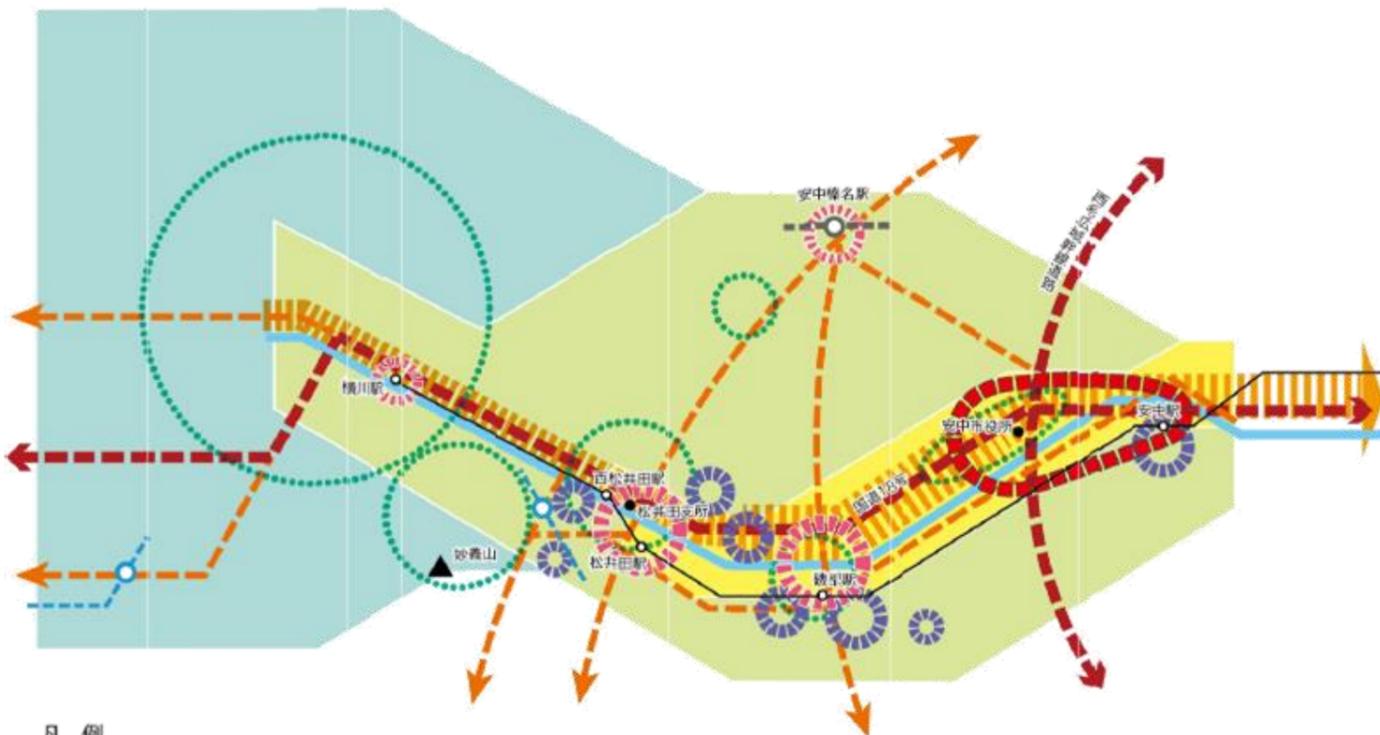
○西毛広域軸(西毛広域幹線道路沿道(都市計画道路3・6・10南北中央幹線))

- 西毛広域幹線道路の整備により、前橋方面と富岡方面をつなぎ新たな交流を育むとともに、沿道では住環境や景観に配慮した適切な土地利用を図る軸

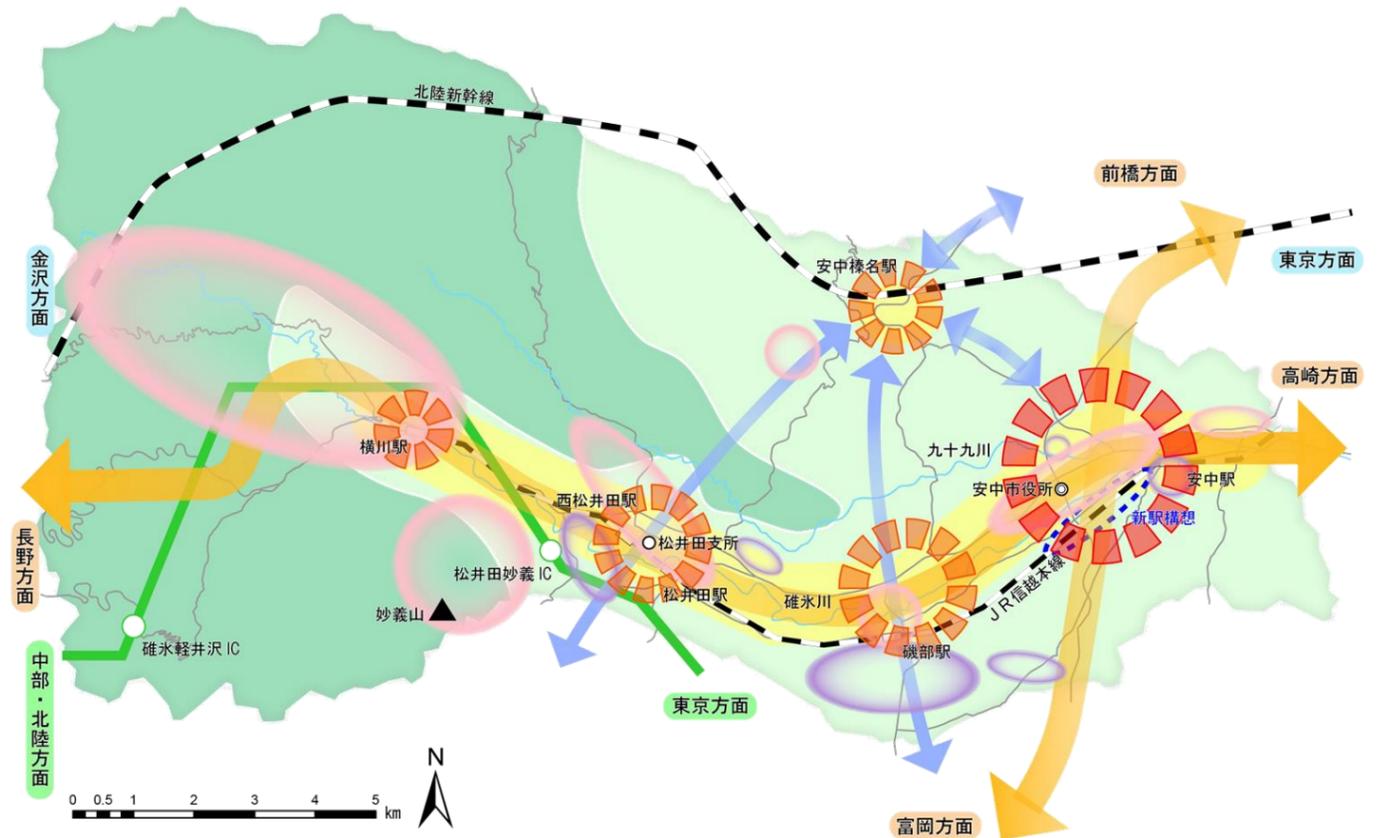
■地域軸：

- 都市軸を補完する軸として、周辺市や市内の各拠点と市街地を結び、人・モノの円滑な移動を担う、地域生活を支える軸

【将来都市構造図(現行計画)】



【将来都市構造図(改定計画)】



【凡例】



分野別基本方針の考え方(案)

